

よさみフェア・チルドレンの活動にご協力ください!

よさみフェア・チルドレンは、皆様からのあたたかいご支援・ご寄付により活動を支えられています。

皆様より頂いたご寄付は、よさみフェア・チルドレンの様々な活動運営費、子ども食堂の食材などで活用させて頂いております。本活動を継続して発展運営していくために、皆様からのご支援をよろしくお願ひいたします。

食品を寄付する

賞味期限が迫った食品や、ご家庭で使い切れなくなった買ひ置き品はありませんか？
そんな食品や調味料などを寄付いただき、本活動にご協力ををお願いします。

子ども用品を寄付する

使わなくなった子ども服や靴、文房具やおもちゃ等の子ども用品を必要なご家庭にお繋ぎします。皆でつなげる子育て支援の輪・リサイクル活動にご協力ををお願いします。

お金を寄付する

子どもたちが地域で安心して成長できる「居場所」を維持していくためには資金が必要となります。いただいた寄付金は幅広く子どもたちのための活動費に充てさせていただきます。

上記の寄付はこちらから

お金の寄付に関しては、銀行振込またはクレジットカードで寄付することができます。



ボランティアで参加する

よさみフェア・チルドレンの活動は、多くのボランティアで運営されています。本活動の趣旨に賛同いただき、ボランティアとして協力していただける方を募集しています。



【共催・連携団体・企業のみなさま】

独立行政法人 医療福祉機構(WAM)

依羅地域活動協議会

浅香振興町会

依羅地区 PTA

社会福祉法人 大阪市住吉区社会福祉協議会

社会福祉法人 あさか会

(一財)海外産業人材育成協会 関西研修センター

ふーどばんく OSAKA

暮らしづくりネットワーク北芝

大阪市立大学 生活科学部

地活隊 チャレンジ会

＼HP・SNSで日々の活動をチェック／

よさみフェア・チルドレン



<https://www.yosami-hr.com/children/>

f 一般社団法人よさみ人権協会

yosamifairchildren



よさみフェア・チルドレン 2020 年度 事業報告書

発行:一般社団法人 大阪市よさみ人権協会

大阪市住吉区浅香2丁目2番57号



夢を、貧困につぶさせない。
子供の未来応援国民運動



よさみフェア・チルドレン - 2020年度 事業報告書 -



コロナ禍におけるよさみフェア・チルドレンの活動

今年度はコロナ禍の影響により当初予定していた行事やイベントを中止せざるを得ず、なかなか思うような活動ができませんでしたが、「よさみフェア・チルドレン」では、子どもたちにとっての最善の利益を考え、自分たちにできることを試行錯誤しながら取り組みました。

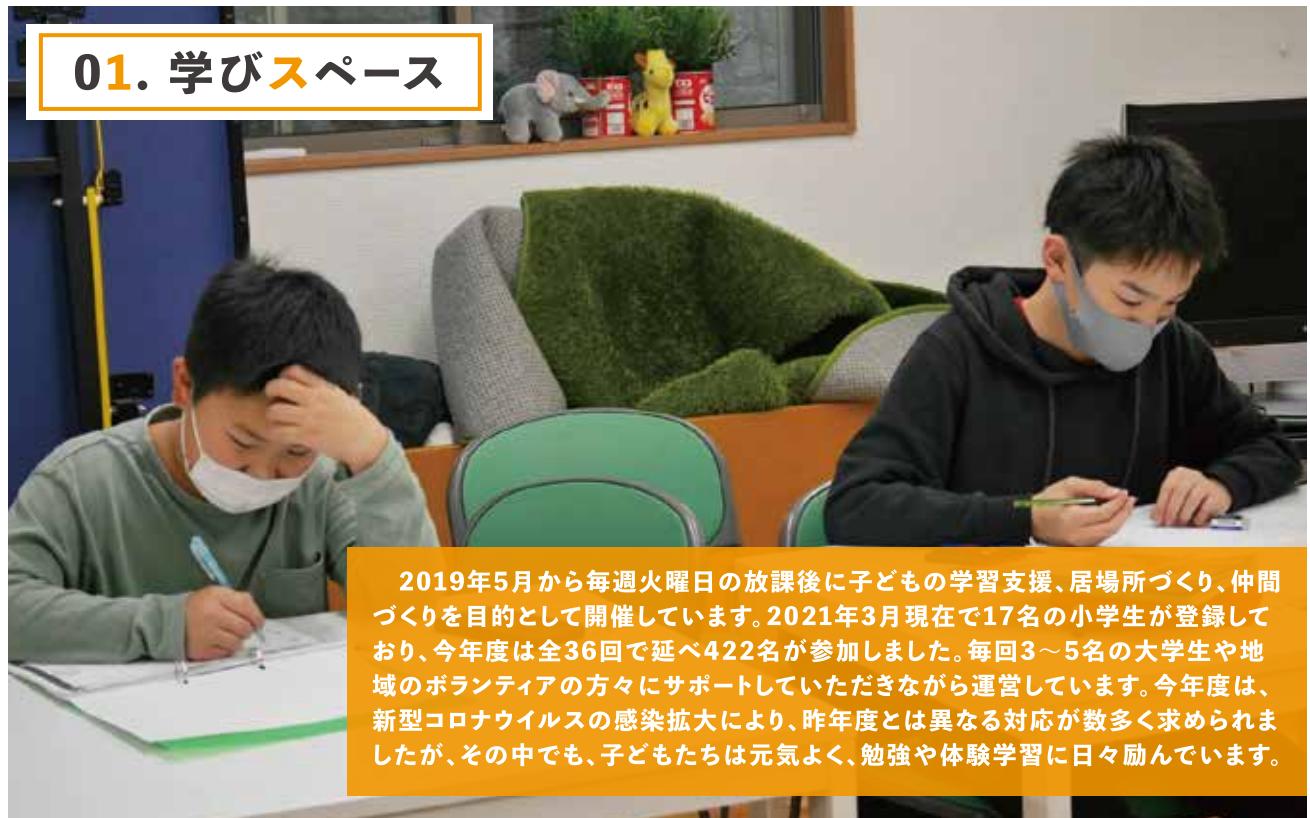
2020年2月29日から新型コロナウイルス感染拡大の影響で小中学校が休校になり、学校給食がなくなったことを受け、3月4日～19日の期間は地域に暮らす子どもを対象に毎日型昼食提供を行いました。しかし、緊急事態宣言発令後の4月から6月にかけては「学びスペース」（学習支援）と「あゆみのひろば」（子ども食堂）の活動を中止することになりました。

その期間中の4月23、24日、5月22日、29日には、子どものいる家庭60世帯を対象にふーどばんくOSAKA等、多くの支援団体から提供していただいた食料や弁当の配布を行いました。緊急事態宣言下におけるこのような取り組みは、読売新聞大阪本社版夕刊（5月9日）でも紹介され、地域に暮らす子育て世帯に対する「よさみフェア・チルドレン」の活動アピールにつながりました。

6月の学校再開後には、感染対策を徹底しつつ、感染のまん延状況によっては食事をテイクアウトにするといった柔軟な対応をしながら、「学びスペース」と「子ども食堂」を再開しました。体験学習では、地域の訪問看護ステーションの協力を得て、感染防止の勉強会を開いていただき、そのお礼に子どもたちがポリ袋で作った医療用ガウンをプレゼントするといった取り組みも実施しました。このように、今年度は予定していたイベントや行事はコロナ禍によりやむなく中や内容変更となりましたが、子どもの活動は継続して開催することができました。さらには、「学びスペース」に通っていた小学6年生の5名が2021年3月に卒業するタイミングで、本人たちの意思によって「学びスペース中学生の部」が立ち上げられたことは、2年間の「よさみフェア・チルドレン」活動の成果であると考えています。



01. 学びスペース



学びスペースの時間割

開始

16:30

①勉強

勉強に取り組んでもらう時間です。わからないことがあれば、大学生のボランティアがサポートしています。



運営から一言

子どもたちの学習環境をより良くするために、今年度からタブレット学習を始めました！

17:30

②体験

勉強後に体験学習を行っています。工作や季節のイベント、アウトドアなど、様々なことに挑戦しています。



18:00

終了

19:00



運営から一言

生活体験が豊富な子どもほど、自己肯定感が高いと言われています。学びスペースの体験学習では、さまざまな体験を通じ、子どもたちと一緒に学ぶことで主体性・協調性・自己肯定感の高い子どもに育っています。

③食事

全員一緒に、晩御飯を食べます。栄養バランスがきちんと考えられたご飯に、子どもたちも満足しています。



運営から一言

新型コロナウイルス感染予防とした「持ち帰り弁当」という対応も一時期ありましたが、共食を通じて、みんなで食べる楽しみや食への関心の向上が見られます。



02. 子ども食堂

2016年から毎月第2土曜日に子どもの居場所づくりや食育を目的として開催しています。今年度は全7回実施し、延べ66名の小中学生が参加しました。毎回数名の大学生や地域のボランティアの方々にサポートしていただきながら運営しています。小中学生であれば予約や登録なしに参加できるので、毎回参加している子どもたちが新しい友達を連れてきたりすることで、子ども食堂を訪れる人数は少しづつ増えてきており、地域の子どもの実態把握にもつながっています。

03. 社会・文化・自然体験



今年度は農業体験キャンプを中止し、8月にスタッフのみで島根県邑南町に赴き、夏野菜の収穫と現地の農家や教員の方々との交流を行いました。子どもたちは自分たちのために野菜を育ってくれた現地中学生とZOOMを活用してオンラインで交流しました。

04. 高校・大学生のサークル活動支援



今年度は参加を予定していた地域イベントは中止になりましたが、2020年10～12月に行われた浅香会館改修工事にボランティアとして参加し、木材の製材作業や塗装作業等を行いました。子どもから高齢者まで誰もが気軽に利用できる地域拠点づくりに貢献しました。

05. 子ども物品バンク



緊急事態宣言発令後の4月23、24日に子どものいる家庭60世帯を対象に支援団体から寄付いただいた食料を配布し、同時に長い休校期間中の子どもの過ごし方を把握すること目的にアンケート調査を実施しました。この調査から、昼食を食べていなかったり、一人で食べている子どもが一定数いることや、昼食の内容がコンビニ、スーパーの弁当や惣菜等になりがちなために出費がかさみ、子どもの昼食を準備することに苦慮している家庭の存在が垣間見えました。その結果を受け、再び支援団体に食料提供をお願いし、5月22日、29日、8月8日、10月25日にも子どものいる家庭60世帯に食料配布や弁当配布を行いました。

06. 支援者向け講座の開催



地域における子ども支援ネットワークを構築すること目的として、小中学校の教職員、子ども支援団体職員、地域関係者、研究者・学生を対象とした「子どもの貧困対策セミナー」を開催しました。2020年10月に「外国にルーツを持つ子どもの支援を考える—当事者の体験から考える支援のあり方」、2021年3月に「台湾の学校教育における外国にルーツを持つ子どもの支援システム」というテーマで開催し、各々の参加者は42名、15名でした。